

◎ 団体名

吉田町ボランティアセンター

◎ 団体紹介

吉田町ボランティアセンターは、2002 年 7 月に「いつでも どこでも だれでも参加できるボランティア」を合言葉に活動をスタートした。会員数は 65 人で、郡山城跡や公共施設の清掃活動を行う「クリーン作戦」、葉ボタンを町内に配布する「花いっぱい運動」のほか、ボランティア研修・交流事業、災害ボランティアなどに取り組んでいる。また、広報活動として広報紙「ラブ丸通信」を発行している。

◎ 令和 6 年度レベルアップ部門の活動報告

【実施概要】

- ・ 事業名 外国人とのボランティア交流と他団体との連携促進
(外国人と一緒に清掃活動 & 外国料理の交流会)
- ・ 日 時 : 2024 年 10 月 6 日 (日) 9:00~14:30
- ・ 場 所 : 安芸高田多文化共生センターきらり
- ・ 参加者 : 吉田町ボランティアセンター会員 33 人 (内小・中・高校生 5 人)、インドネシア人 15 人
合計 48 人
- ・ 内 容 : 「安芸高田多文化共生センターきらり」のグラウンドと施設周辺の清掃活動を、ボランティアセンター会員とインドネシア人と共同で実施した。清掃活動終了後、インドネシア及び日本料理で昼食、料理の紹介や自己紹介、作業後の感想などを話し合い、最後は参加者全員でゲームをしながら交流会を行った。

【活動の状況】

・ 安芸高田多文化共生センターきらりの清掃活動

安芸高田多文化共生センターは、外国人の交流や研修施設であると共に、外国人技能実習生が宿泊する施設である。常駐職員が 2 名と少ないため、広大な施設の草刈りや清掃には手が回らない状況となっている。そのため、吉田町ボランティアセンターが年に 2 回清掃ボランティアを行ってきた。このような経緯がある中で、安芸高田市国際交流協会と連携し、「安芸高田多文化共生センターきらり」を利用する外国人技能実習生 (インドネシア人) と共同で清掃活動を行い、国際交流を深めることを目的に事業を実施した。

当日は、グラウンドと施設周辺の草刈り、樹木の剪定、落ち葉の清掃活動を行った。清掃活動中、吉田町ボランティアセンターの会員とインドネシア人が日本語で会話をするなど、気軽に交流する姿が見られた。



草刈りと草の集積



刈った草を運ぶインドネシア人

・ 食事交流会

清掃活動終了後、安芸高田多文化共生センターの食堂で、インドネシア料理と日本料理の食事交流会を行った。インドネシア料理は多文化共生センターで暮らすインドネシア人が担当し、日本料理は吉田町ボランティアセンターの会員が担当した。お互いの国の料理を説明した後、参加者から味についての感想を聞いたが、双方とも「美味しい」との答えが返った。

食事交流会では、インドネシア人と日本人が同じテーブルに座り、食事をしながら日本語で会話を楽しんだ。また、自己紹介や清掃活動の感想を一人ずつ発表するなど、和やかな雰囲気での交流を図ることができた。



インドネシア料理の説明



自己紹介をするインドネシア人

・ ゲーム交流会

食事会終了後、全員で「ダーツ」、「お手玉投げ」、「輪投げ」などゲームによる交流会を実施した。簡単なゲームであるがそれだけに参加者は熱中し、歓声上がるなど盛り上がりを見せた。



ゲーム交流会



清掃活動後の集合写真

◎ 事業の成果と今後の活動について

まちづくり支援事業のレベルアップ部門に応募して3年目となる令和6年度は、「外国人とのボランティア交流」を活動テーマにして事業を行った。今回参加したインドネシアの技能実習生は、明るく、友好的で、体力のいる作業など積極に取り組み、グラウンドの清掃作業も効率的に行うことが出来た。また、日本語が話せるのでボランティアセンターの会員も気軽に会話を楽しみながら清掃活動ができ、外国人に対する理解が深まったのは大きな成果であった。インドネシア人も日本人と接することで貴重な体験になったとの声があった。インドネシアの技能実習生は休日に「きらり」のグラウンドでサッカーを楽しんでおり、グラウンドが整備されたことを大変喜んでいて。外国人とのボランティア交流活動は、来年度以降も実施し、交流の輪をさらに広げて行きたい。

レベルアップ部門に応募したことで専門家のアドバイスをいただき、組織の課題を克服するための事業が展開できたのは大きな収穫であった。これからも着実にレベルアップして行けるよう事業に取り組んで行きたい。